

教育研究グループ「教育結果」報告書

請告日 令和 3年 4月30日

グループ名	東京都奉仕・ボランティア教育研究会	フリガナ 代表者氏名	ヨシダ スミ 吉田 寿美
学校名 (代表者)	東京都立豊多摩高等学校 (吉田 寿美)	電話番号	03-3393-1331
研究テーマ	児童・生徒のボランティア体験学習の推進及び体験を契機とする探究学習の推進		
研究期間	令和 2年 4月 1日 開始から 令和 3年 3月 31日まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>東京都奉仕・ボランティア教育研究会は、東京都の学校設定教科・科目である「奉仕」の指導者養成のため、平成21年度に「東京都奉仕研究会」として設立し、平成27年度に「東京都奉仕・ボランティア教育研究会」と名称変更し、学校教育におけるボランティア体験学習の内容・方法について実践研究を進めてきた。</p> <p>本研究会は、児童・生徒が様々な課題を受け止め、社会のあるべき姿を想定して他者とともに主体的に課題を解決するようになるためには、ボランティア体験学習が有効であると考えている。このことは、新学習指導要領が、児童・生徒が社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために、主体的・対話的で深い学びを重視していることと、軸を一にすると捉えている。</p> <p>これまで本研究会は、児童・生徒のボランティア体験学習及び体験を契機とする探究学習を推進するため、月例会において研究を進めるとともに、「認定NPO法人さわやか青少年センター」とともに「スクールボランティアサミット」を企画・開催してきた。「スクールボランティアサミット」では、東京を中心に全国の優れたボランティア体験学習の実践例を収集・分析し、広く紹介してきた。</p> <p>しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、月例会の開催を縮小するとともに、「スクールボランティアサミット」の開催を見送った。</p> <p>一方、令和4年度に「第46回全国高等学校総合文化祭東京大会」が開催され、協賛部門としてボランティア部門が設置されることを念頭に置くと、本都において、ボランティア体験学習を研究・推進する本研究会として、高校生のボランティア活動の現状把握に取り組むことが重要と考えた。そこで、令和2年度の研究として、ボランティア活動に関する部活動等を行っている都立高等学校43校を対象にアンケート調査を実施した。17校から回答のあった調査結果からは、主たる活動は清掃を含めた地域活動であるが、近年、小・中学生を対象にした活動が増えていること、また、指導者は、ボランティア活動により生徒のコミュニケーション能力が向上していると感じていることなどが把握できた。さらには、4校の都立高校生の意見を集約することもできた。これらのことについて、別紙により報告する。</p>		
その他 特記事項	令和3年度においても「スクールボランティアサミット」の開催は難しいと考えている。そこで、令和2年度の調査等を基に、高校生等のボランティア体験学習の実態や意義などについて、今後も研究を進めていく。		

令和 2 年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会 報告

「都立高等学校におけるボランティア部等の活動について」

東京都奉仕・ボランティア教育研究会は、児童・生徒のボランティア体験学習の推進及び体験を契機とする探究学習の推進を目的に、研究活動及びボランティア体験学習促進に関する広報活動に取り組んでいる。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の活動を縮小し、ボランティア活動に関する部活動等を行っている都立高等学校を対象にアンケート調査を実施して、高校生のボランティア活動の現状把握に取り組んだ。

アンケート調査は、2 段階の設定で行った。第 1 段として、ボランティア活動に関する部活動等を設置している都立高等学校（43 校）に対し、活動の内容や生徒の成長などを尋ねた。第 2 段として、生徒向けのアンケートに協力すると回答のあった学校に改めて生徒向けアンケートを送付し、入部のきっかけやこれから取り組みたい活動などを尋ねた。なお、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、いずれの学校も活動が制約されていることから、主に令和元年度以前の状況を尋ねた。

【学校向けアンケート結果】

- 1 実施期間：令和 2 年 12 月 22 日（火）から令和 3 年 1 月 15 日（金）まで
- 2 実施対象：全都立高等学校のホームページを調べ、令和 2 年 9 月 3 日段階でボランティア活動を行っていると思われる部・同好会等（例：ボランティア部、福祉部、JRC 部）を設置している学校（43 校）
- 3 回答校数：17 校（回収率：39.5%）

全日制（学年制）高等学校	13 校
全日制（単位制）高等学校	2 校
定時制（単位制・昼夜間）高等学校	1 校
定時制（学年制・夜間）高等学校	1 校
- 4 回答者：部活動顧問 15 校（88.2%）
副校長 2 校（11.8%）
- 5 平均部員数：ボランティア体験学習を全校で取り組んでいる回答した 1 校を除いた 16 校の平均

10.1 人

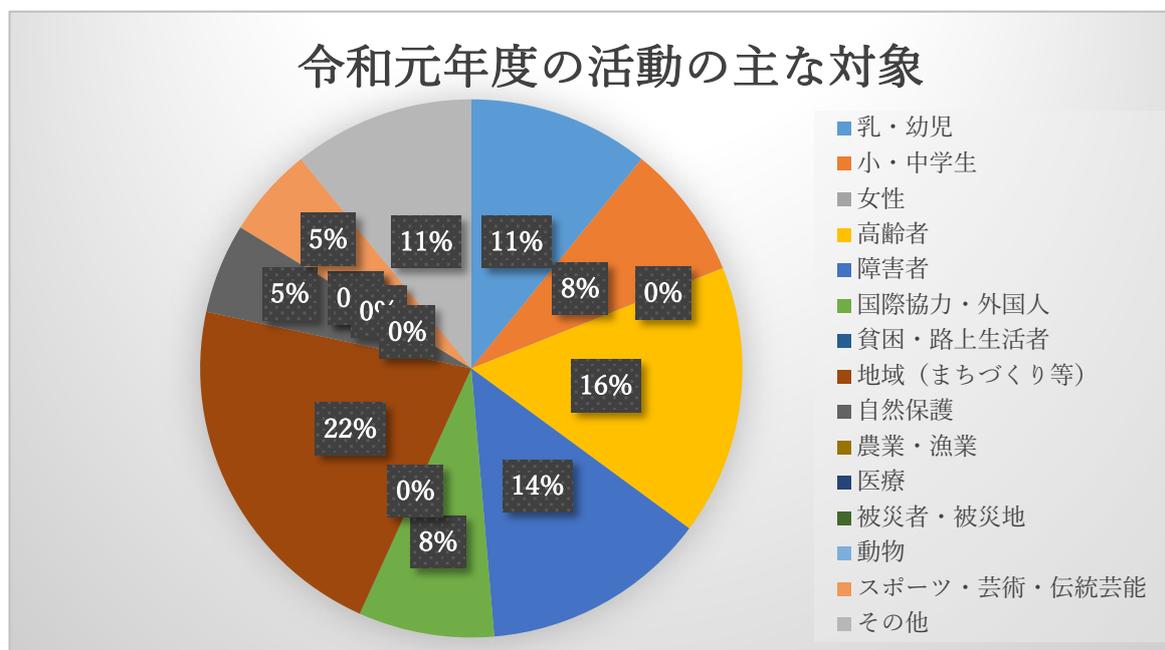
この 16 校の平均在籍生徒数が、687.3 人であることから、部員の全生徒に占める割合は、平均 1.5%であった。

6 回答の概要

※ 「主なものを3つ選んで」として1位～3位までに選ばれた合計回数により作成

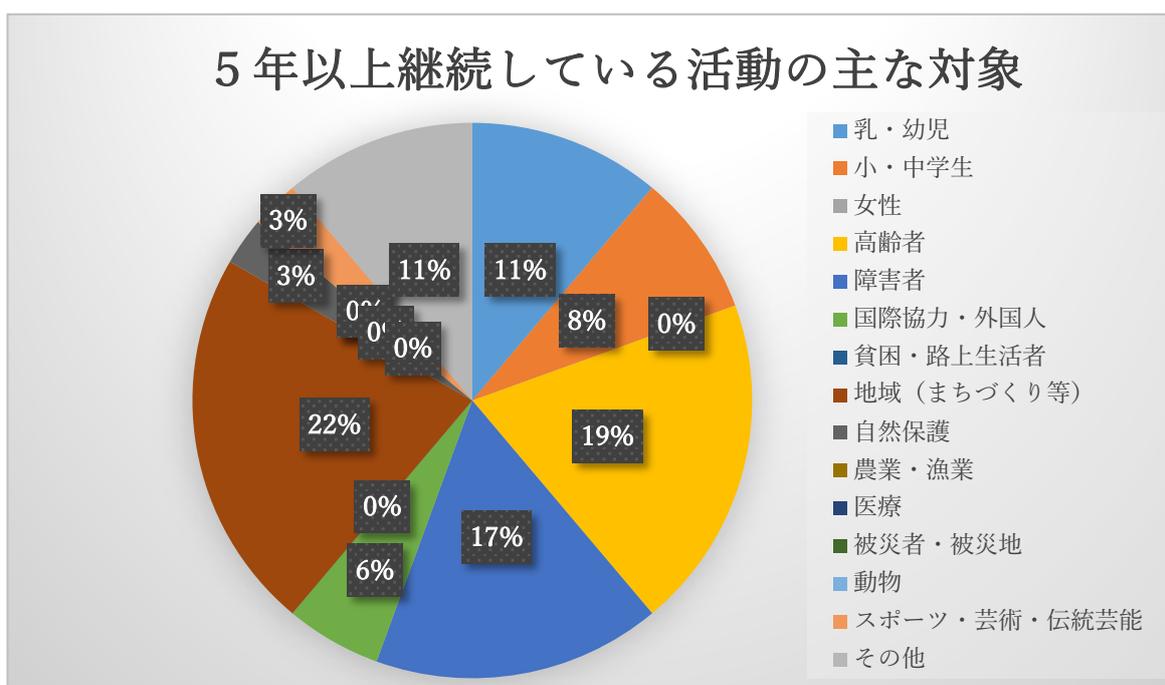
※ 一部、「0%」のラベルは重なった状態で表示

質問1 令和元年度に取り組んだ活動は誰（何）に関連したものであったかをお教えてください。



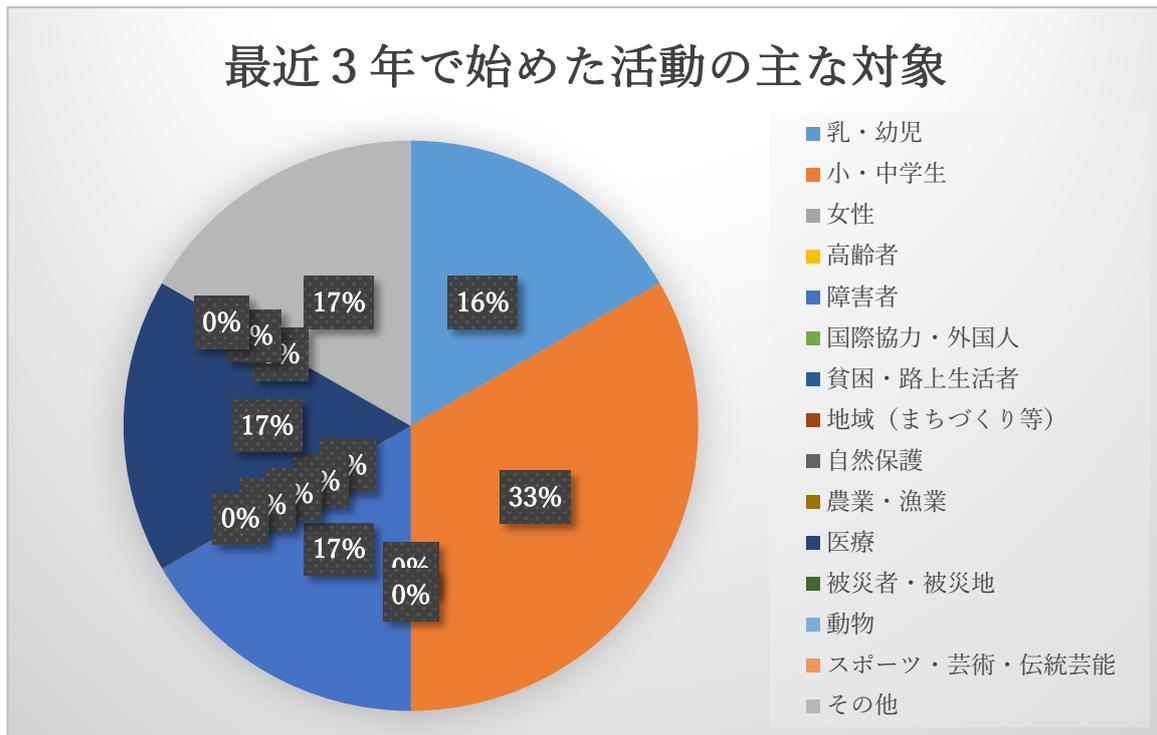
最も多かったのは「地域（街づくり等）」を対象としたものであり、これには地域清掃も含まれる。

質問2 過去5年以上（新しい部等では、誕生してから）継続して行っている活動をお教えてください



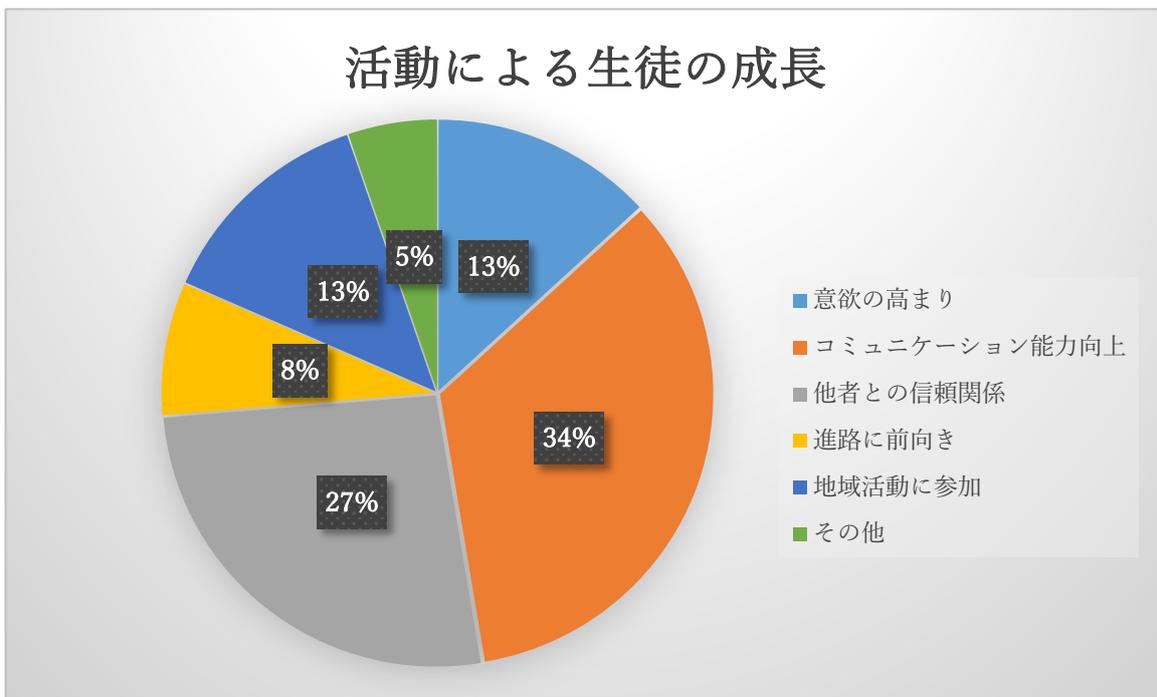
Q1と比較すると、令和元年度は、「障害者」を対象とした活動が減り、「高齢者」や「スポーツ・芸術・伝統芸能」を対象とした活動が増えている。

質問 3 平成 30 年度以降、新たに取り組み始めた活動をお教えてください。



最近始めた活動としては、小・中学生を対象とした活動が多かった。

質問 4 部活動を通じて見られる部員等である生徒の成長は、どのようなものでしょうか。



指導者から見て生徒の成長として感じられるのは、コミュニケーション能力の向上や他者との信頼関係といった人間関係の構築に関わるものであった。

【生徒向けアンケート結果】

- 1 実施期間：令和3年2月8日（月）から令和3年3月5日（金）まで
- 2 実施対象：生徒向けアンケートに協力可能と回答があった11校を対象に実施
- 3 回答校数：4校（回収率：36.4%、対43校：9.3%）

全日制（学年制）高等学校	3校
全日制（単位制）高等学校	1校
- 4 回答者：3校は第2学年の生徒各1人が回答
1校は第1学年生徒1人と、第2学年生徒1人が回答
- 5 回答の概要

質問1 ボランティア活動を始めた、あるいはボランティアの部活動に参加したきっかけは何ですか。また、それはいつのことですか。

《回答1》～活動を始めたきっかけの時期を基に整理

【きっかけは小学生段階】

- ・誰かのために行動し、たくさんの方に触れて経験したいと思った。
- ・少しでも困っている人を助けられると思った。
- ・ボランティアを通して、人生経験を積みたかった。

【きっかけは中学生段階】

- ・人の役に立ちたいと思っていた。
- ・学校で募集されていた活動が楽しそうだった、人の役に立ちたかった。
- ・PTA主催のクッキー教室に教える側のボランティアに参加して、小学生と一緒に作ったのが楽しかった。

【きっかけは高校入学時】

- ・子どもと関わる機会が増えると思い、入部した。
- ・親に勧められて始めた。
- ・新入生歓迎会で上級生のバルーンアートが印象的だった。

《考察1》

小・中学生段階からボランティア活動に関心があった生徒では、人の役に立ちたいという思いを抱いている。しかし、高校入学以降であっても人の勧めやきっかけがあれば、ボランティア活動に関われる可能性があると言える。

質問2 ボランティア活動を始めて、気付いたことや自分が成長したなと感じるところは何ですか。

《回答2》～生徒の意見を大別して整理

【行動に関すること】

- ・自分から行動できるようになった。
- ・相手が必要としていることを考えることの難しさが分かった。
- ・周りの様子を見ながら必要な行動できるようになった。
- ・必要な情報なのかを整理して考えられるようになった。

【コミュニケーションに関すること】

- ・コミュニケーションへの抵抗感が減った。コミュニケーション能力が高まった。
- ・言葉で理解してもらうことの難しさが分かった。
- ・言葉だけでなく、行動することで、より伝わりやすくなる。

【ものの見方・考え方に関すること】

- ・いろいろなものの見方があることに気づいた。
- ・ボランティア活動は「支援する」という考え方から、「自分がやりたい活動をした結果、誰かのためになっていて、それが自分の成長にもつながっている」という考え方変わった。

【ボランティア活動等に関すること】

- ・ボランティア活動が楽しいと思えた。
- ・人の役に立つことは、改めてとても良いことだと思えた。

《考察 2》

生徒は、自ら行動することの大切さに気付いているが、様々なものの見方があることに気付いている。また、指導者が感じているように、コミュニケーション能力の向上を感じているが、その難しさも感じている。

質問 3 あなたの学校の活動で、他校の生徒に紹介したい活動を教えてください。

《回答 3》

- ・子供などの反応を引き出しやすいので、バルーンアートづくり
- ・町がきれいになり、ありがとうと言ってもらえるので、地域清掃活動
- ・幅広い年齢の方と関わりをもてるから、小学校や老人ホームでの交流

《考察 3》

生徒は、スタンダードとも言える活動に有効性を感じている。

質問 4 今後取り組んでみたい活動を教えてください。

《回答 4》

- ・外国人に関わるボランティアや国際的な交流
- ・地域清掃を含めた地域の人たちとの交流
- ・保育園や小学校、高齢者・障害者施設への訪問と交流
- ・イベントのサポート
- ・募金活動

《考察 4》

生徒は、主としてボランティア活動を通じて他者との交流に取り組みたいと考えている。

【令和 3 年度に向けて】

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な部活動が制約されており、特に、直接人と交流するようなボランティア体験学習を設定できない状況が続いている。しかし、人との触れ合いによって得られる成果は大きい。このことから、今後、「新しい日常」の中で、遠隔なども含めて人との交流が図られるような活動について情報を収集し、検討して提言していきたい。